

矢祭町子ども司書の認定を受けた君たちへ

みなさん、こんにちは。

この一年、子ども司書の学びを、頑張つてやりとげましたね。おめでとう！

人は、子ども時代にしっかりと本を読んだか読まなかったか、その違いは、やがて大人になって社会生活をするようになってから、心の豊かな人生を送るのか、それともぎすぎすとした粗雑な心で毎日を過ごすだけになるのか、どちらになるのかに影響を与えるほど大きな意味を持つのです。

もともと、本を読むことには、大きく分けると、二つの意味があります。

一つは、本を読んでいるその時に、新しい知識や考え方を学んだり、楽しい時間を過ごしたりすることができるといことです。

もう一つは、その時は気づかなくても、十年後とか五十年後に、人生を振り返った時、あの時あの本を読んで感動したことが、今の自分を支える力になってきたんだと気づくような、生き方や人生に深い影響を受けるといことです。

本というものは、このようにとても大きな意味を持つものなのです。

君たちは、この一年、子ども司書として、本には実にいろいろな分野のものがあることや、図書館の役割の大切さや読書活動の進め方など、ひとりで好きな本を読んでいるだけではない学びをしましたね。

その学びは、本の選び方や図書館のすばらしさと楽しさなどについて、いろいろと気づかせてくれたことでしょう。子ども司書の学びに参加したことは、右に述べたような本を読むことの意味を、より一層、幅広く学ぶことになったと思います。本や図書館が果たす役割について幅広く知った君たちは、これから自分で本を選んだり読む時、自分では気がつかなくとも、これまでよりもっと深く本の内容を味わったり学んだりすることができるようになっていくに違いないと、私は確信しています。

矢祭町は、子ども司書を育てるとい取り組みを、全国に先がけて始めた町です。子ども司書を育てる取り組みは、急速に全国各地に広まりつつあります。その先導者の役割を務めた矢祭町で子ども司書の学びに積極的に自ら参加したことを、君たちは誇りに思ってください。

この貴重な経験を積んだ君たちが、やがて成人式を迎えるころ、どんな若者に成長しているか、想像するだけでも楽しいです。

どこかで私に出会ったら、ぜひ声をかけてください。今日は、本当におめでとう！

平成二十五年三月三日

作家 柳田 邦男